

3. 世の中の動向

3.1. 世の中の動向

現在、世の中の価値観に大きな変化が見られてきています。より多くの成長を求め、効率化、スピードを競ってきたこれまでから、安定／成熟、ゆとり、くつろぎ、個性、自然などを大切に考えるようになってきました。中でも、環境意識の向上は環境教育への関心の高まりにつながり、協働意識は、住民参加型の公共施設のあり方の検討や企業参加などにつながってきています。

これらの世の中の動向は、動物園の今後を考える上で、欠かせないポイントとなってきました。

1) 観光

近年、日本の観光客の動向は大きく変化してきています。少子高齢化で成熟した社会では、観光振興＝交流人口の拡大、観光需要の創出により地域経済を活性化させる動きが起きています。従来の物見遊山的な観光旅行に対して、テーマ性が強く、人や自然とのふれあいなど体験的要素を取り入れた新しいタイプの旅行と旅行システム、ニューツーリズムが注目されており、環境体験型のエコツーリズムはその代表格にあります。また、釧路市としても「釧路市観光振興ビジョン」に見られるように、観光への積極的な取り組みを始めています

旭山動物園を代表格とした動物園の観光資源としての可能性への取り組みが円山動物園などでも行われ始めています。

2) 企業の社会貢献活動

近年日本では、企業の社会貢献活動（CSR）が盛んに行われるようになってきました。活動内容としては、社会福祉、芸術・文化、教育、環境保全など様々な分野に渡って行われています。

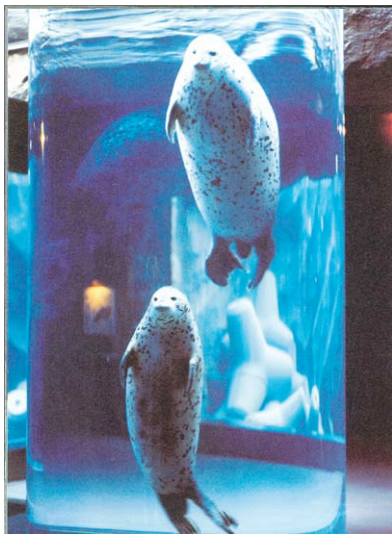
円山動物園のように、企業による動物園への CSR としての参加が見られるようになってきました。これは、動物園が学術研究、教育、文化、環境といった多面的側面があるためだと考えられます。

3.2. 動物園の動向

これまで動物園は、子どものレクリエーション施設としての側面が強く、近年の少子化や珍獣の減少に伴い、全般的に来園者数の減少が見られてきました。そのような環境の中、日本動物園水族館協会が示す「レクリエーション」「教育」「自然保護」「研究」という4つの動物園の目的に「種の保存」「環境教育」の考え方が見られるようになってきました。

それとともに、動物展示の方法も近年大きく変化し、動物福祉の視点に立ち飼育動物の幸福な暮らしを実現するための環境エンリッチメントという考えがみられるようになり、それを実践した「行動展示」「環境一体型展示（ランドスケープイマージョン）」という動物展示方法が行われるようになってきました。

これにより、来園者が驚きと感動を感じ、環境教育へとつながっていく事で、旭山動物園に見られるように、大きな話題となり、動物園自体が復権してきています。



旭山動物園の行動展示



ズーラシアの環境一体型展示

4. 釧路市動物園の価値

これまでの「釧路市動物園の特性と課題」や「世の中の動向」を踏まえると釧路市動物園には、以下のような独自のすばらしい価値があり、これらを生かす計画づくりを行っています。

本物の釧路大自然の入り口 大自然の恵み 大自然の命

釧路らしい湿地環境

シマフクロウなど本物の自然の中の本物の北海道の動物

阿寒から太平洋まで、森と海とを結ぶ位置にある動物園

ひがし北海道における観光動線の入り口

敷地の広さ その中でのゆったり、のんびり感

47.8ha もの広大な敷地面積

動物を見るだけでなく、ゆったり自然観察をしたり、くつろぐことができる

豊富できれいな水

動物飼育を支える、きれいな地下水

きれいな水で生き生きとした動物達

高い飼育力 野生動物の保護活動

長年の蓄積による高い飼育力

地域を支える、野生動物の保護活動

市民、企業などとの連携のはじまり

始まってきた、寄付や奉仕活動

動物園整備基金の設立